う」の命名進水式を開催
京九州フェリー（入谷代
）の横須賀（神奈川県横
市門司区）航路に投入す
（高松美希）

関東でデイリー体制を実現させる。

「はまゆう」は総トン数1万5400㌧。全長222・5㍍、幅25㍍で、航海速力は28・3ノット。横須賀―新門司を21時間で結ぶ。2層構造の車両甲板はトラック（12㍍換算）154台を積載できる。

日曜日を除く週6便を2隻で運航。下りが横須賀発午後11時45分、翌日午後9時新門司着。上りは午前0時新門司発、午後8時45分横須賀着。

車両甲板には、青果物・生鮮食品や冷凍食品など鮮度保持に必要な電源設備を完備。関東向け食品の長距離輸送のモーダルシフト需要に応えていく。SO_x（硫黄酸化物）の排出規制への対応策として排ガス浄化装置（スクラバー）を搭載する。

7日、長崎造船所で催された命名進水式では、入谷代表取締役が「はまゆうと命名する」と宣言。船旅アンバサダーの小林希氏による支綱切断に合わせて祝いのくす玉が割られ、場内は拍手に包まれた。「はまゆう」は横須賀市の市花で、花言葉は「どこか遠くへ」。九州と関東の架け橋としての思いを込めた。

新日本海フェリー、阪九フェリー（小笠原朗社長、北九州市門司区）などを中核企業とするSHKライングループは18年から、グループ各社の出資で新会社「東京九州フェリー」を立ち上げ、横須賀市と連携し長距離フェリー航路の新設を目指してきた。

日通◆コロナ影響まとめ

売上高438億円減を予測

今期

日本通運がまとめた新型コロナウイルス感染拡大の影響によると、2020年4～6月期の連結業績全体では売上高が237億円減、営業利益は92億4千万円減となった。21年3月期では、それぞれ438億5千万円、207億7千万円の減少を予測している。

セグメント別で最も影響が大きかったのは日本で、売上高が208億円、営業利益は80億円、それぞれ減ったと分析。事業別の売上高への影響は、引越・移転事業が最も大きく、27億円落ち込んだ。また、海運事業で24億円、小口貨物以外のトラック輸送を担う自動車事業は23億円、鉄道事業では16億円の減少要因となった。

通期のセグメント別予想では、日本で売上高が485億1千万円、営業利益は187億3千万円、それぞれ減少を見込む。一方、東アジアは売上高が128億1千万円、営業利益は29億1千万円、南アジア・オセアニアも売上高が92億1千万円、営業利益は12億7千万円、いずれも増える見通しだ。

なお、日通はKPI（重要業績評価指標）として、コア事業である電機・電子、自動車、アパレル、医薬品の各産業の国内・海外別売上高、フォワーディング事業での取扱数量、非日系顧客の売上高の各目標値を定めているが、コア事業も新型コロナの影響を受けた。20年4～6月期（単体）の

コロナによるコア事業への影響

項目		実績
国内事業	電機・電子産業	241億円（▲7%）
	自動車産業	121億円（▲28%）
	アパレル産業	39億円（3%）
	医薬品産業	36億円（▲2%）
	非日系顧客の拡大	83億円（25%）

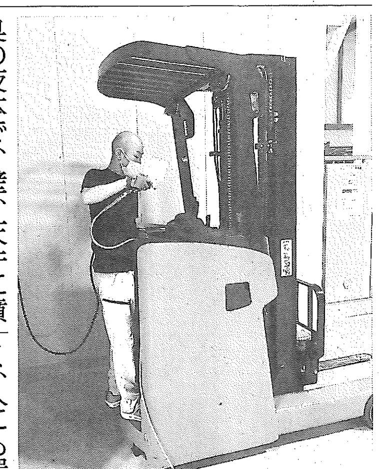
センター・車両に抗菌加工

ウイルス対策 従業員と荷主守る

加勢

加勢（風間国義社長、大阪市中央区）では、自社で運営する物流センター、車両を対象に、抗菌・ウイルス加工を施し、安全に荷物を輸送する態勢を整備している。新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、「従業員と荷主を守る」という風間社長の理念の下、4千万円を投資してグループの拠点に順次施工していく。7月の門真フォースパークⅢ（大阪府門真市）、久山フォースパーク（福岡県久山町）を皮切りに、年内には全センターでの施工を完了する予定だ。

ニチリンケミカル（森田邦治社長、大阪市北区）が開発、製造する「空気触媒セルフィール」を使用。セルフィールは天然ミネラル100%、無色透明かつ無臭の液体で、壁、天井に噴霧すると空気中の酸素、水に反応して有害物質を分解する。消臭、抗菌、抗ウイルスに効果を発揮し、新型コロナ対策としても期待できる。完全無機材で人体には無害のため、防護服などの必要が無く、人にも環境にも優しい。



セルフィールは人体には無害で防護服などの必要がない

また、空気触媒は一度施工すると長期間効果が持続。光の無い場所でも有害物質を分解できるため、倉庫をはじめとした屋内でも効果を発揮する。

新型コロナの影響が広がる中で、日々の生活を支える物流の重要性が改めて認識されつつある。こうした現状を踏まえ、加勢では従業員、荷主を含めたパートナーの健康、安全を守るため、自社センターにおける抗菌・ウイルス加工の施工に踏み切った。7月に同社のグループ会社、アゲルアンドコー（馬場昭佳社長、大阪市中央区）がニチリンケミカルと代理店契約を締結。アゲルアンドコーが門真、久山の両拠点の施工を終えた。

8月には八千代フォースパーク（千葉県八千代市）、加勢本社の事務所でも実施。全国のセンターにも順次施工するほか、大型トラック10台、中型14台、小型24台などグループで保有する車両にも抗菌加工を進める。加工を終えた車両には「抗菌・消臭 抗ウイルス施工済」と書かれたステッカーを貼り付けるなど、荷主に安心してもらえるよう取り組みを進める。

加勢の辻本昌一郎取締役は「風間社長を中心に、コロナ禍に対して社を挙げて取り組んでいる。門真、八千代など加工を終えたセンターでは、荷主から好評を得ている。他の拠点でも展開し、顧客からの要望にも応えていきたい」と話す。

コロナ禍により、物流事業者でも抗菌・ウイルス加工への意識が高まっており、引き合いも増えているという。加勢ではこれを受け、アゲルアンドコーを中心にセルフィールの施工ノウハウの蓄積を進め、今後は他の物流事業者でも施工を請け負っていく考えだ。

（黒須晃）

住環境を改善

生産性向上&人材確保

しやすい。
課題とは何か。
には業務の内製化
る外部委託費の削
第2はドライバーを
した人材の確保と
化だ。20年3月期も
たったが、物量の落
みや人手不足を背景
た外注費の増加が減
因となった。従業員
増を図りながら内製
まる給与水準の引き
や労働環境の整備に
人材の確保を確実な
にしていく。
―10月からは「週2
休」制に移行してい
と聞く。
れまでも1週間当た

りの休日は2日としていたが、取引先の要請などにより、土曜日に交代で出勤していたのが実情だ。しかし、新制度では平日を含め、週2日を完全に休む「週2日休」とする。この結果、21年度からの休日数は金融・保険業界などと同水準の年間123日となる。また、東京都江戸川区、埼玉県八潮市の2カ所の社宅が完成すれば、採用面での競争力確保につながっていく。

――人材確保は進行中の東京PJにも織り込み済みだが、全体計画はどうか。

現東京支店は敷地面積4万2900平方㍍の規模だが、開業から既に半世紀近くが経過しており、施設の老朽化はもとより、高度利用ができていなかった。今回の東京PJでは東京支店の土地を売却し、その売却益を最大限活用しながら新東京支店（東京都江東区）を含めた新たな施設を建設する。

――総額280億円規模の大型PJになる。

22年3月期を最終年度とした進行中の中期経営計画の柱になっている。新東京支店は区分所有というスキームを活用することで、借入金を増やすこと無く完遂できるものだ。2年後の22年1月には新東京支店が完成する予定で、計画した全案件が竣工、本格的に動き出していく。

――2大旗艦店はどう変わるのか。

新東京支店は7階建て、延べ床面積13万8040平方㍍で、1階はターミナル、2階は当社が区分所有する。一方、新たな山形支店は市内3カ所のターミナルを統合し効率化を図る。2階建て、延べ床面積2万450平方㍍の施設であり、新東京支店と同じく保管庫を併設し、寒冷地対応の完全インドア構造となる。竣工は21年9月を見込んでいる。

文 高木明
写真 小瀬川厚

まねだ・そういちろう 1957年5
まれ、埼玉県出身。81年一橋大学商
部卒業後、三菱信託銀行（現三菱UF
信託銀行）入社。2005年広島支店
15年6月第一貨物取締役経理部長兼
室長、16年常務、19年専務。20年6
から現職。

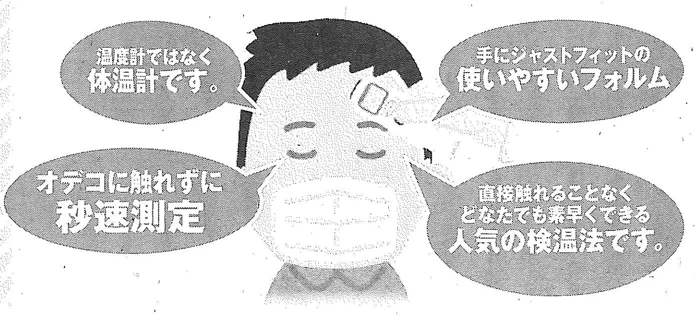
◆企業メモ◆

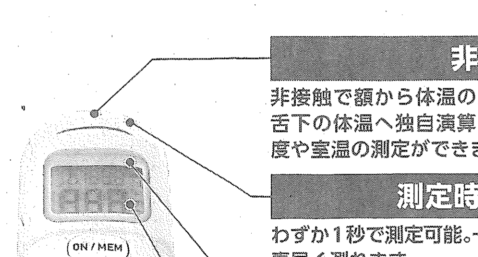
特積業界大手で、3PL（サードパーティー・ロジスティクス）事業にも注力。1941年の設立で59年仙台―東京―大阪の特積輸送開始、75年全店オンライン化、90年第一貨物に商号変更。2011年中国に現地法人上海特耐王第一物流を設立。12年太平興業と持ち株会社ディー・ティー・ホールディングス設立。16年ナビトランス買収。資本金1億円、事業所数68カ所、従業員数4207人、売上高737億7300万円（20年3月期）。

センコーグル

インセンテ

センコーグループホー
ディングスは11日、同社


温度計ではなく体温計です。
手にジャストフィットの使いやすいフォルム
オデコに触れずに秒速測定
直接触れることなくどなたでも素早くできる人気の検温法です。



皮膚赤外線体温計

医療機器認証番号 302AHBZX00008000

ご好評により第二次受付開始！

医療機器のため、お届けまでにお時間がかかる場合がございます。

非接触

非接触で額から体温の測定が可能。（額の体温から舌下の体温へ独自演算）また、体温の他にも表面温度や室温の測定ができます。

測定時間 約1秒

わずか1秒で測定可能。一般的なワキ式体温計よりも

都道府県トラック協会・協同組合・
一般トラック事業者向け（販売単位：1個以上）

販売価格 8,000円 ［税、送料、梱包料 別］